

Nijima Yae
& Aizu wakamatsu

新島八重と会津若松

ハンサムウーマン 八重と

会津博

八重の桜

YAE NO SAKURA

平成25年
大河ドラマ「八重の桜」
放送決定

舞台は福島県
会津若松市

ハンサムウーマン 八重と 会津博

新島八重



平成25年大河ドラマ「八重の桜」の主人公に

会津藩士の娘で、同志社大学創始者・新島襄の妻

「新島八重」が決定しました。

生まれ故郷の会津若松市にある

福島県立葵高校(旧会津女子高)には新島八重直筆による

「明日の夜は 何国の誰か ながむらん

なれし御城に残す月影」

の和歌と「美德以為飾(美德をもって飾りと為す)」

の書が大切に保管されています。※会津女子高の前身
会津高女時代に交流があった。

動乱の幕末から激動の明治期を生きた

新島八重が後世に託したメッセージに

込められているものは…。

平成25年大河ドラマの主人公

「新島八重」の生いたちや足跡を辿ってみましょう。

女性の地位向上に 尽力した会津女性

会津藩校日新館の教授で大砲頭取であった兄・寛馬から砲術の指南を受ける。戊辰戦争で籠城戦が始まると、西軍のアームストロング砲から発射される無数の砲弾が飛び交う中、男装した八重(当時23歳)は、大小刀を腰に下げ、7連発式のスペンサー銃を担ぎ、自ら狙撃兵となって戦うが、一カ月後に鶴ヶ城は開城、会津藩は降伏した。

維新後の明治四年、京都府の顧問格にあった兄・寛馬を頼り、八重は母や姪と共に京都へ移住。積極性のある八重は、そこで英語を学び、洋服を身にまとい、いち早く明治の新女性へと変身。新英学校女紅場(現在の京都府立鴨沂高等学校)の権舎長兼教道試補となる。

明治八年、後に同志社英学校を創設する新島襄と出会い、翌年京都で初めての洋風の結婚式を挙げた。その後、襄とともに同志社の運営に力を注ぎ、その発展の礎を築いた。西洋の思想と武士の誇り、道徳を併せ持つ八重は世間から悪妻、烈婦などと中傷されても動じず意志を貫いた。

しかし、頑健な体質ではなかった夫・新島襄は、ヨーロッパ旅行中に心臓発作を起こし、明治23年大磯で療養中、八重の腕の中で47歳の生涯を閉じた。兄・寛馬もその2年後に他界。

八重はその後、日本赤十字社の社員となり社会福祉事業に貢献。日清、日露戦争時には篤志看護婦として従軍し、傷病兵の看護にあたった。

晩年は茶道に親しみ穏やかに過ごした。江戸、明治、大正、昭和と激動の時代を常に前向きに生き、昭和七年六月十四日永眠。波瀾万丈の生涯を閉じた。

八重年譜

- 1845年(弘化2年)**
会津藩砲術師範の父・山本権八と母・佐久の娘として生まれる。
- 1865年(慶応元年)**
この頃、川崎尚之助と結婚する。
- 1868年(慶応4年)**
戊辰戦争で八重は鶴ヶ城に籠り西軍と戦うが、会津藩は降伏。川崎尚之助と離別。
- 1870年(明治3年)**
兄・覚馬は京都府の顧問格に就任。
- 1871年(明治4年)**
兄・覚馬のいる京都に移住。洋学を学ぶ。
- 1872年(明治5年)**
女紅場(現在の京都府立鴨沂高等学校)の権舎長兼教道試補となる。
- 1875年(明治8年)**
アメリカ帰りの新島襄と出会い婚約。同志社英学校開校。
- 1876年(明治9年)**
洗礼を受け、新島襄と結婚。京都で初めての洋風の結婚式を挙げる。
- 1877年(明治10年)**
同志社分校女紅場(後の同志社女学校)開校時に礼法の教員となる。
- 1890年(明治23年)**
夫・新島襄永眠。その後、日本赤十字社の正社員となる。
- 1895年(明治28年)**
日本赤十字社終身社員となる。日清戦争で篤志看護婦として従軍。翌年民間女性初の勲七等宝冠章を受ける。
- 1898年(明治31年)**
京都婦人慈善会理事となる。
- 1901年(明治34年)**
愛国婦人会京都支部創立委員、同臨時評議員となる。
- 1905年(明治38年)**
日露戦争時、篤志看護婦として従軍。
- 1906年(明治39年)**
勲六等宝冠章を受ける。
- 1924年(大正13年)**
皇后陛下の同志社女学校行啓の時に単独謁見を許される。
- 1928年(昭和3年)**
松平容保の孫・勢津子、秩父宮家に嫁入り。昭和天皇即位の大礼の時に天盃を受ける。
- 1931年(昭和6年)**
会津若松市の大龍寺(菩提寺)に「山本家之墓」碑を建立。
- 1932年(昭和7年)**
87歳で波乱の人生を閉じ、永眠。

新島八重ポイント

華麗なる3変身



明治34年当時を再現して撮影。56歳

1 ジャンヌ・ダルク説

弟の死、故郷の喪失
1868年~

会津戦争の敗北

幼少の頃から勉学に励み、会津藩に忠誠を誓い、世に恥じない立ち居振る舞いをする。そして立派に死ぬことを教えられて育つ。白虎隊にも鉄砲の扱い方を教えていた。鳥羽・伏見の戦いで負傷し、亡くなった弟・三郎の形見の装束を身にまとい、銃を片手に、圧倒的な勢力を持つ西軍を相手に凛々しいまでも勇ましく戦った。その姿は「ジャンヌ・ダルク」を思わせる。

2 ハンサム・ウーマン説

女の生き方
1871年~

鉄砲から知識へ

京都に移住した八重は、英語を学び、洋服を着こなし、帽子を被り、靴を履き、明治の新女性として、また女性教育者として活躍。男女平等を望む八重の生き方は、まさしく「ハンサムウーマン」と呼ぶに相応しい。



3 ナイチンゲール説

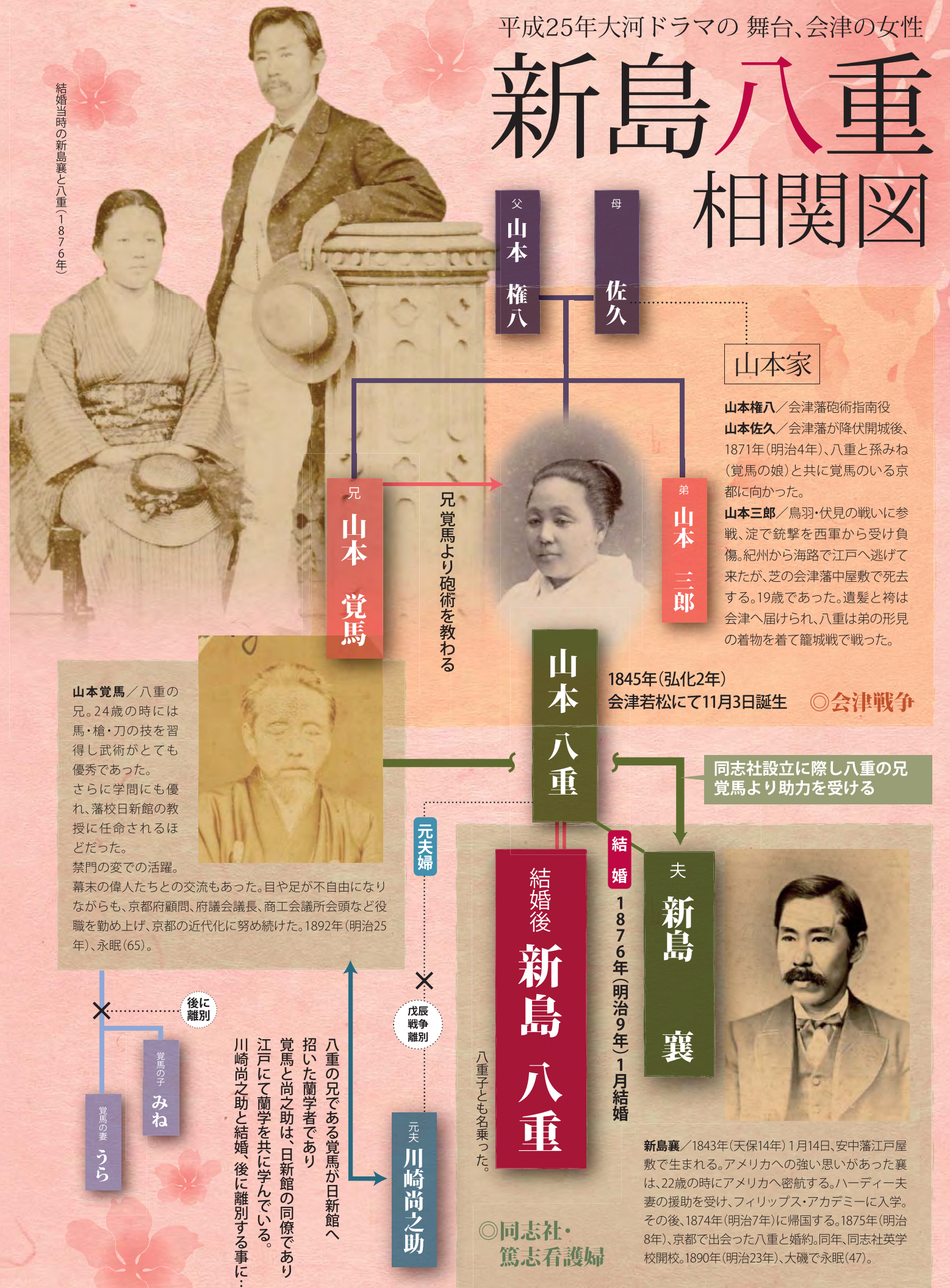
幸せでなくてはならぬ
1890年~

弱者はいたわらなければならぬ

日本赤十字社の社員となり、日清戦争・日露戦争時は篤志看護婦として従軍し、傷病兵を看護。その後もさまざまな形で社会福祉に尽力。その功績をたたえ、「日本のナイチンゲール」と呼ぶ人もいる。

平成25年大河ドラマの舞台、会津の女性

新島八重 相関図



※使用している新島八重・新島襄、山本覚馬肖像画像は同志社大学より借用掲載

八重ゆかりの地



山本覚馬や新島八重の生まれ故郷、会津若松には今も城下町の佇まいを感じさせる旧所・名跡が数多く残っており、町並みを歩くと戊辰戦争の戦火を免れた江戸時代の建物や明治、大正期に建てられた蔵や洋風建築物などにも目がとまります。

新島八重が愛したふるさとは、八重に関する数々のエピソードが隠されています。会津若松を散策して新島八重(八重の桜)をもっと身近に感じてください。

鶴ヶ城

威風堂々とそして、清々しく現在日本唯一の赤瓦の天守閣がリニューアルオープン。



飯盛山

白虎隊十九士の墓

大龍寺

大龍寺本堂。本堂前には戊辰戦争殉難殉節供養の碑がある。八重の先祖が眠る山本家のお墓。

会津若松を探訪する

施設インフォメーション | 白虎隊記念館
「新島八重資料を常時展示」
(明治時代の写真5点、遺墨2点を展示している)



豆知識 1
山本家ここに眠る
大龍寺本堂。本堂前には戊辰戦争殉難殉節供養の碑がある。八重の先祖が眠る山本家のお墓。

日本基督教団会津若松教会

※日本組合若松基督教会の創立は明治24年(栄町)大正5年に宮町へ移転

若松賤子の碑



大山(山川)捨松ゆかりの地

「豊岡神社」から4斤山砲1門で小田山の西軍砲陣に夫の川崎尚之助と八重らで立ち向かった。



月見櫓

新島襄と八重、七日町で宿泊



明治15年7月、新島襄・八重夫妻が初めて会津を訪れる。覚馬の先妻の娘・峰夫婦も一緒に旅で、八重と峰にとって十年振りの故郷訪問であった。27日に会津に到着し、七日町の清水屋旅館に投宿。土方歳三や吉田松陰、森称太郎(鷗外)も泊まった宿で、現在は七日町通りの大東銀行会津支店になっている。明治19年5月、新島襄は二度目の会津訪問をしている。

清水屋旅館跡

会津新選組記念館

「山本八重と鉄砲展」開催中

山本覚馬・新島八重生誕の地



山本覚馬・新島八重の生誕地碑は現在の米代二丁目にある。実際の生家はここから西方に約50m行った所である。その東隣りは白虎隊士伊東梯次郎の家だった所である。

八重の書(県立英高等学校)

※見学は出来ませんのでご了承ください。

山本覚馬・新島八重生誕の地碑

八重の父権八が眠る光明寺



会津藩玄武士中伊与田隊・山本権八は戊辰戦争の際、門田一ノ堰で戦死。墓は門田町一ノ堰の光明寺にある。



電車の方は、会津鉄道へ乗換え

新島八重ゆかりの地 会津の女性たち

西郷 千重子

1835～1868年



会津武家屋敷蔵想像画

戊辰戦争時、会津藩家老・西郷頼母の妻千重子は、籠城を知らせる早鐘が鳴り響くと、夫と長男をお城に見送り、千重子は、「なよ竹の 風にまかす身ながらも たわまぬ節の 在りとこそきけ」と辞世の歌を残し、足手まといにならないようにと一族とともに自害して果てた。

大山 捨松

1860～1919年



会津武家屋敷蔵

鹿鳴館の貴婦人。会津藩家老山川尚江の娘として生まれ、明治4年岩倉使節団に随行してアメリカに10年間留学。帰国後大山巖と結婚し、女子英学塾(津田塾の前身)を支援、女子教育に貢献。また、皇族や華族の夫人・令嬢を率いて慈善バザーやボランティア活動を積極的にに行い、その精神を定着させていった。

海老名 リン

1849～1909年



若松第一幼稚園蔵

幼児教育・女子教育の先駆者。会津藩士日向新介の娘として生まれ、海老名季昌と結婚。キリスト教信者となり、社会活動家として活躍。明治26年には、会津に私立若松幼稚園(現在の若松第一幼稚園)と若松女学校(現在の葵高校)を創立。

中野 竹子

1850～1868年



法界寺蔵想像画

戊辰戦争時、婦女子まで戦闘員に駆り出せないという家老萱野権兵衛だったが、「ならばこの場で自刃します」と言う竹子達の決死の覚悟に止むを得ず許可。竹子は、「もののふの猛き心にくらぶれば 数に入らぬ我が身ながらも」と詠んだ短冊を薙刀に結び戦場で奮闘するが、敵弾に倒れる。

若松 賤子

1864～1896年



フェリス女学院蔵

会津藩士 松川勝次郎の子として阿弥陀町(現 宮町)に生まれる。横浜のミス・キダーの学校(現在のフェリス女学院)を卒業後、同校の教師となる。「小公子」「小公女」の訳をはじめ外国文学を日本に紹介しながら、ペンを通して男女平等、女性や幼児教育の必要性、新しい女性の生き方等を訴え続けた。

瓜生 岩子

1829～1897年



個人蔵

「社会福祉の母」といわれる岩子は現在の喜多方市に生まれる。行商をしながら家族を支え、戊辰戦争時には負傷者の救護活動をし、明治に入ると幼学校の設立に取り組み、貧困児童の教育、貧困者の救済に奔走するなど、多くの貧しい人々、病める人々と出会い、生涯をかけて日本の近代社会福祉の基礎をつかった。明治29年に女性初の監授褒章を受章。



会津松平家の祖 名君
保科正之公
hoshina masayuki

保科正之公の功績のひとつに「暦の改訂」があります。

農事などに関して、現代とは比較にならないほど重要だった「暦」ですが、それまで数百年にわたり中国の宣明暦を用いたために、暦には差が生じていました。しかしながら、暦の策定は朝廷の支配下にあるとしてその改訂は容易には行えなかったのです。正之は日本独自の暦の必要性を痛感し、渋川春海に和暦づくりを託したのです。

慶長16年(1611)、二代將軍徳川秀忠の子として誕生、三代將軍家光の異母弟。秀忠が正室の目をはばかり、元和3年(1617)、信濃国高遠の保科家に養子に出され、その後、家光から血縁として厚遇され、出羽国山形を経て会津23万石を与えられました。

明暦3年(1657)の明暦の大火(振袖火事)では、リーダーシップを発揮し被災者の救済と町の再興に力を注ぎました。ほかにも玉川上水の開削、殉死の禁止、大名人質制度の廃止など善政を施し徳川幕府を支え、大きく貢献。のちに家訓十五箇条を制定します。

寛文12年(1672)江戸で没、磐梯山麓(猪苗代町見祢山)の土津神社に永眠。

明察 天地

星が動く。
時代が動く。

【てんちめいさつ】

第81回米国アカデミー賞 外国語映画賞「おくりびと」

監督: 滝田洋二郎

2010年本屋大賞第1位「天地明察」(角川文庫)

原作: 冲方丁

音楽: 久石譲

主演: 岡田准一

2012.9.15

岡田准一 宮崎あおい 佐藤隆太 市川亀治郎 笹野高史 岸部一徳 渡辺 大 白井 晃 横山 裕 市川染五郎 中井貴一 松本幸四郎

脚本: 加藤正人/滝田洋二郎 製作:「天地明察」製作委員会 共同配給: 角川映画/松竹 © 2012天地明察製作委員会

www.tenchi-meisatsu.jp

お問
合せ

会津若松観光物産協会

住所/〒965-0042 福島県会津若松市大町一丁目7-3

TEL 0242-24-3000

FAX 0242-24-4000

会津若松
観光情報サイト

会津若松観光ナビ

ホームページアドレス <http://www.aizukanko.com>

検索